

歯科開業医の談話室

- 01 上顎無歯顎印象採得
- 02 下顎無歯顎印象採得
- 03 日本人用無歯顎既製トレー
- 04 クラスプと関節維持装置の配置
- 05 直接維持装置の設計
- 06 間接維持装置の設計
- 07 鉤歯の歯冠形態改造
- 08 大連結子の設計
- 09 根尖まで根管充填する方法
- 10 歯内療法用器具の根管内破折防止
- 11 下顎孔伝達麻酔の方法
- 12 歯科医師のための患者情報書類の書き方
- 13 咬合理論
- 14 顎関節症
- 15 咬合病
- 16 変形性顎関節症
- 17 外側翼突筋の障害

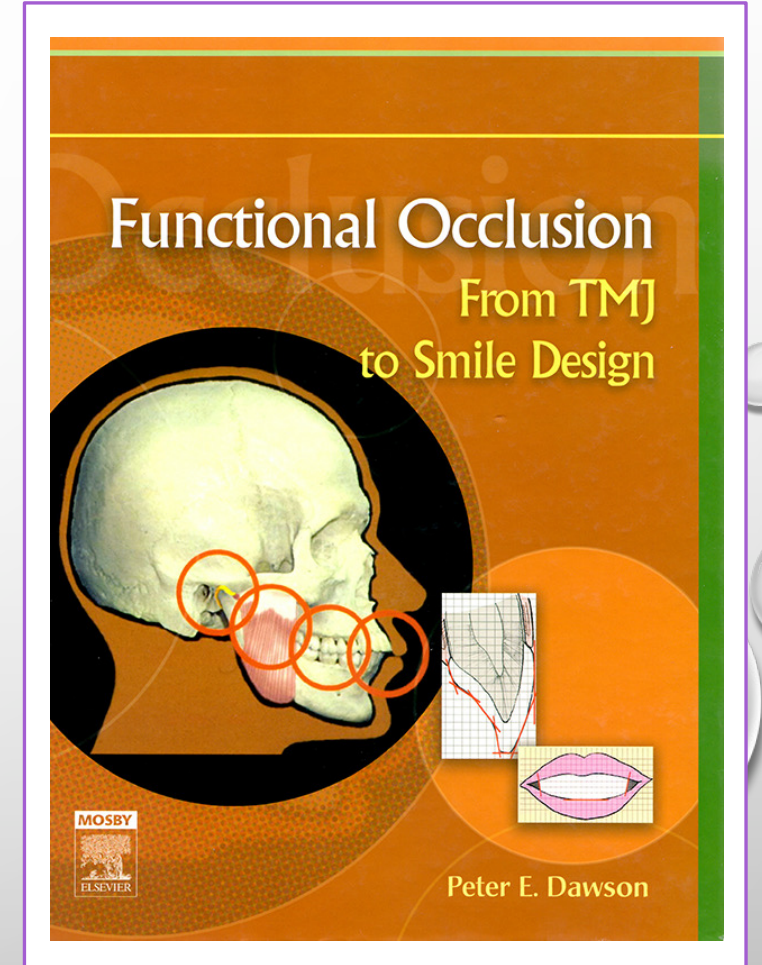
- 18 円板後部組織の障害
- 19 中心位
- 20 中心位の採得方法
- 21 不正咬合
- 22 咬合分析
- 23 咬合調整
- 24 咬合調整のための診察・診断
- 25 咬合調整の方法
- 26 咬合調整の症例
- 27 咬合平面
- 28 咬合高径の理論
- 29 スマイルデザイン
- 30 アンテリアガイダンス
- 31 ロングセントリック
- 32 ブラキシズム
- 33 顎関節の雑音**
- 34 オクルーザルスプリント
- 35 理想咬合
- 36 感染根管のプレパレーション
- 37 破折防止のための器具操作方法

実践やさしい咬合理論(定価3,200円) シエン社およびAmazonにて購入できます。



もくじ

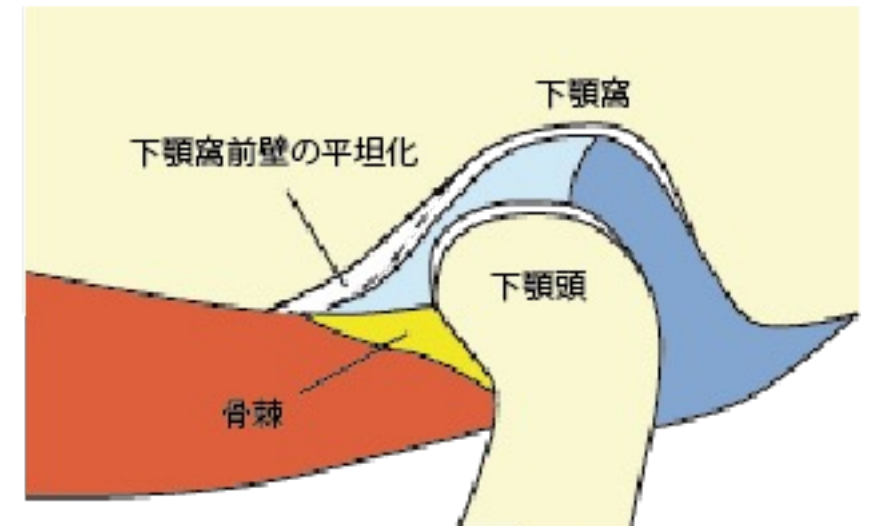
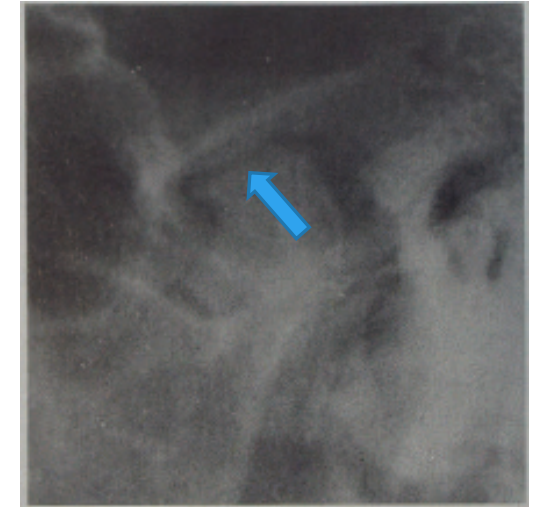
1. 顎関節の雑音とは
 2. 顎関節雑音の種類
 3. クリック音が生じる要因
 4. クレピタス音が生じる要因
 5. 関節円板変形の原因
 6. 顎関節雑音の治療
 7. 顎関節雑音の治癒経過
 8. 顎関節雑音の問診と診察
- 参考文献



1. 顎関節の雑音とは

顎関節の雑音は、下顎運動に伴って顎関節部に生ずる異常音です。顎関節雑音は、右のレントゲン写真とイラストが示す変形性顎関節症の症状の一つで、関節円板の変形により引き起こされます。

顎関節雑音の解消に積極的に取り組む歯科医師は少ないことから、ほとんどの患者さんは顎関節雑音に対する治療をあきらめております。しかし、顎関節雑音に悩む患者さんは多く、歯科医師は顎関節雑音を解消する治療方法を習得する必要があります。

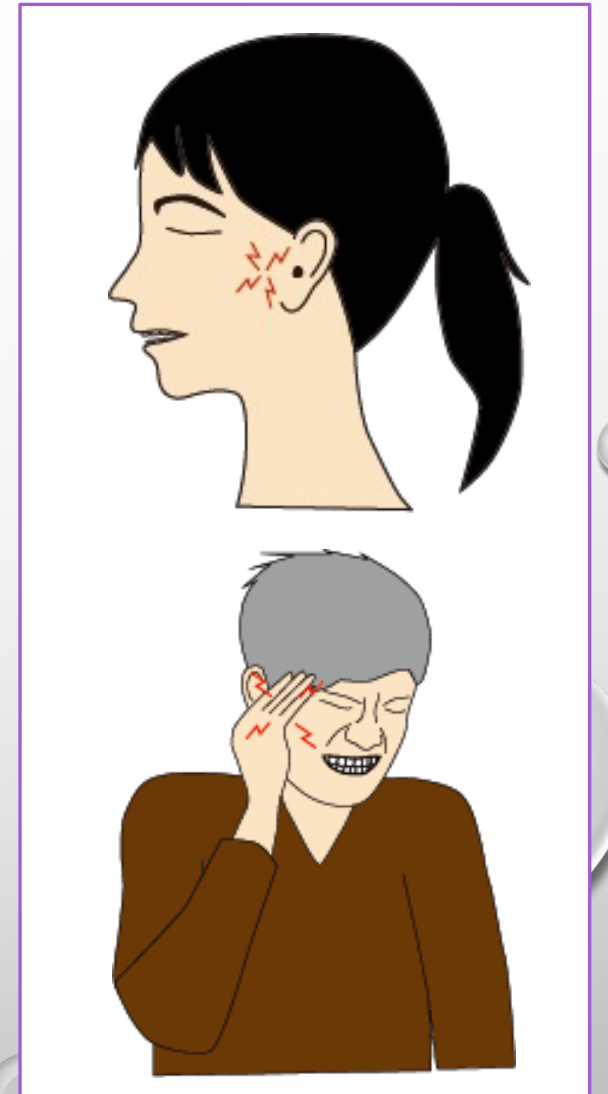


2. 顎関節雑音の種類

顎関節雑音には、クリック音とクレピタス音があります。

クリック音は、ポキッという澄んだ音が特徴で、ほとんどの場合痛みが伴いません。クリック音は痛みが伴わないことから、ほとんどの患者さんはクリック音の治療をしておりません。しかし、クリック音に悩む患者さんは少ないわけではなく、その治療は必要とされております。

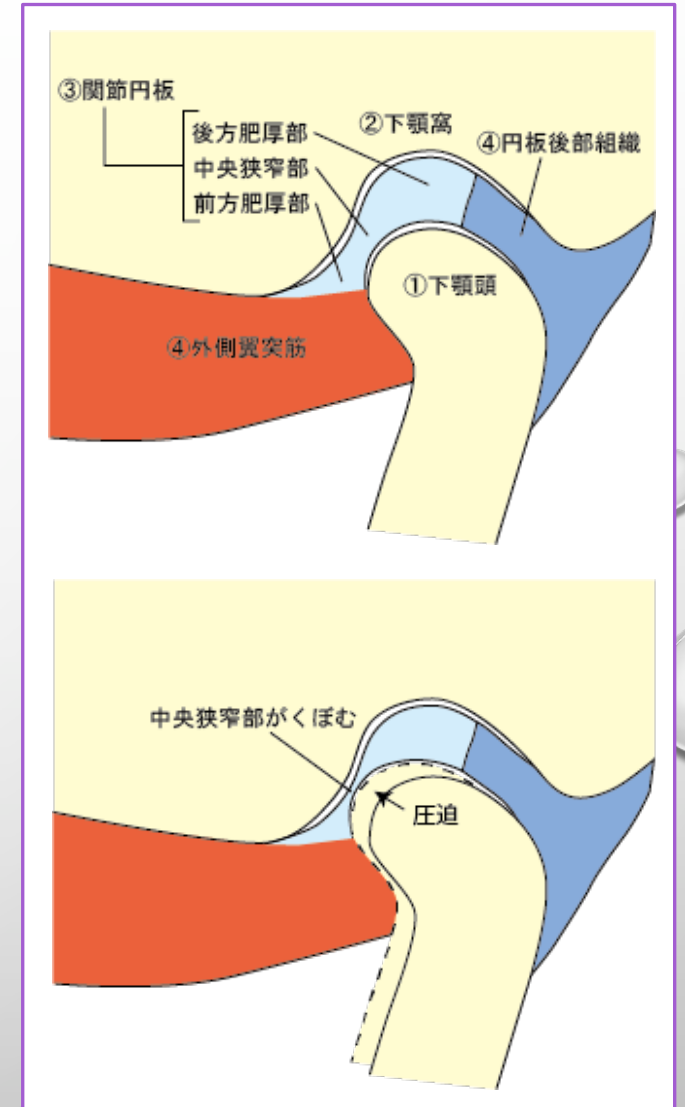
クレピタス音は、下顎運動に際して生じるジャリがこすれ合うような音です。疼痛などの症状を伴うことが多く、機能的不正咬合を解消する原因療法が欠かせません。



3. クリック音が生じる要因

関節円板の変形は、関節円板が下顎頭から繰り返し異常な圧を受けることにより生じます。

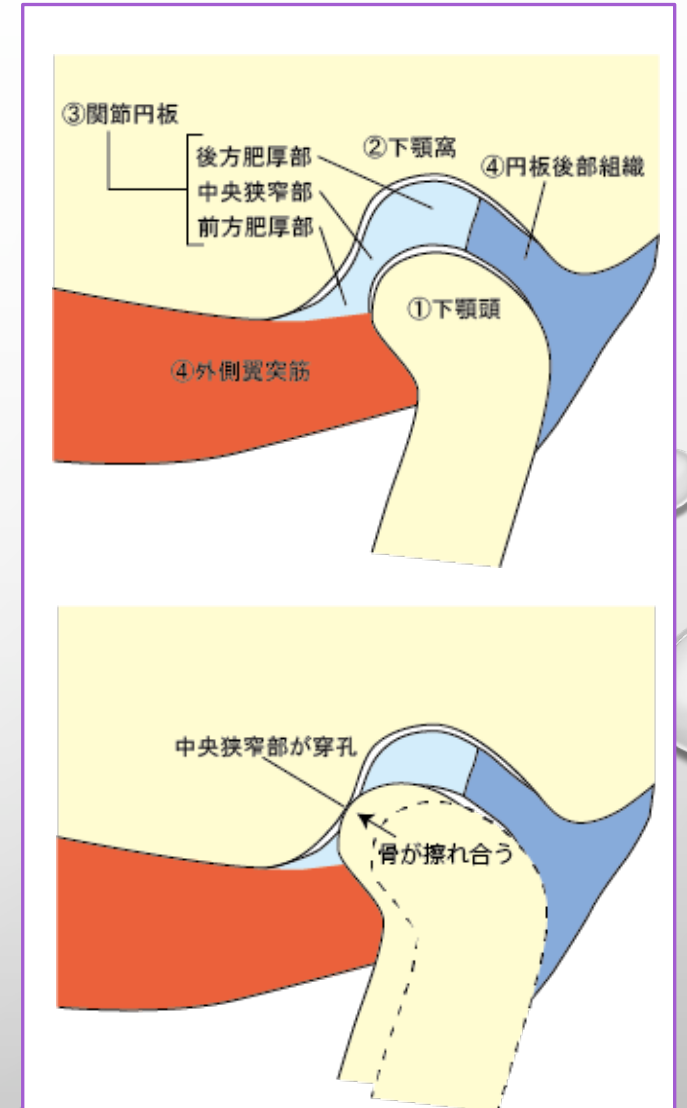
右上のイラストは、健康な顎関節の状態を示しております。関節円板は後方肥厚部と中央狭窄部と前方肥厚部から構成されております。正常な顎関節において、下顎頭から関節円板に加わる圧力は後方肥厚部が受け止めます。しかし、機能的不正咬合が生じると下顎頭の圧が中央狭窄部に繰り返し強く加わることがあります。その場合、右下のイラストが示すように、関節円板の中央狭窄部は損傷を受けて変形することになります。開閉口および咀嚼に際して、下顎頭がこのくぼみに落ち込むときにクリック音が生じます。



4. クレピタス音が生じる要因

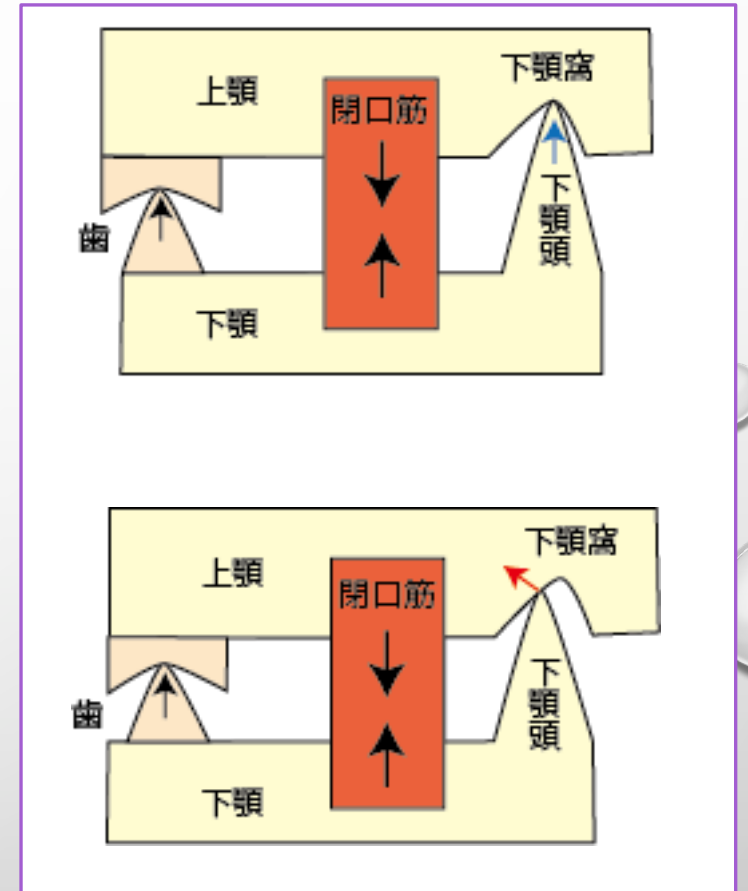
クレピタス音は、機能的不正咬合に起因するブラキシズムにより、下顎頭が関節円板を繰り返し強く摩擦して関節円板が穿孔した後に生じます。右上のイラストは健康な顎関節の状態を示しております。右下のイラストは、下顎頭が関節円板を繰り返し強く摩擦して円板狭窄部が穿孔した状態を示しております。関節円板が穿孔した状態を放置すると下顎頭と下顎窩の骨が直接接触して擦れ合うこととなります。骨と骨が直接擦れ合うことにより、ジャリがこすれるような音が生じます。

穿孔した関節円板が元通りの健康な関節円板に回復することは望めません。しかし、クレピタス音が解消して日常生活に支障がない顎関節の状態にすることは可能です。



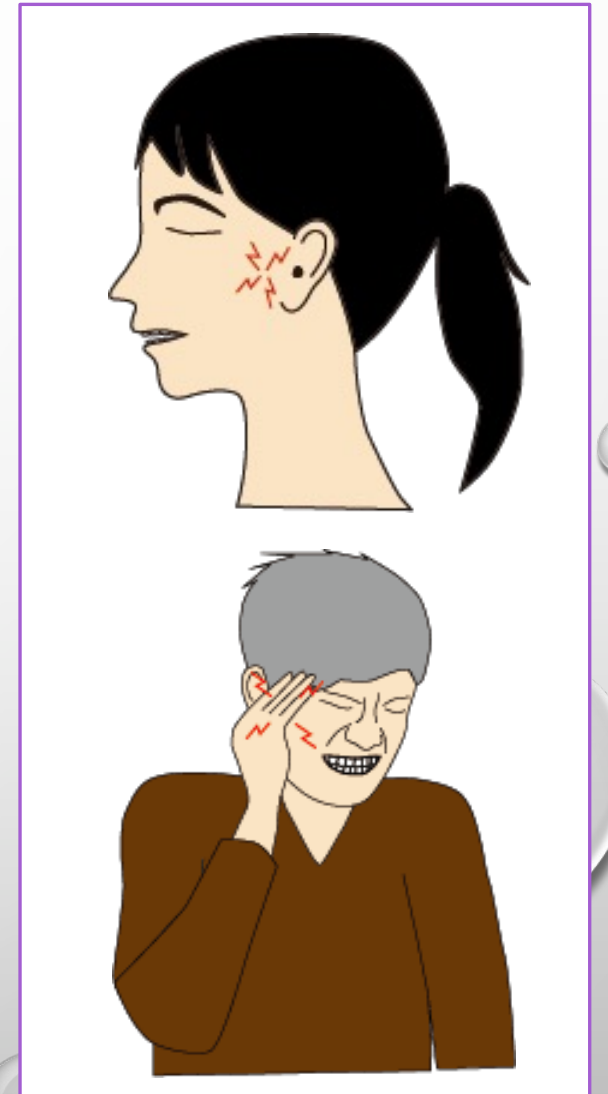
5. 関節円板変形の原因

右上のイラストが示すように、正常な咬合すなわち咬頭嵌合位と中心位が一致している状態で閉口筋が収縮したとき、下顎頭が青い矢印の方向に関節円板を圧迫します。健康な顎関節において、この圧迫は関節円板の後方肥厚部が受け止め、関節円板が障害を受けることはありません。しかし、右下のイラストが示すように、咬頭嵌合位において下顎頭が中心位からずれている状態で閉口筋が収縮すると、下顎頭は下顎窩の斜面上に位置しているため、下顎頭が赤い矢印の方向に関節円板を繰り返し強く圧迫します。その結果、関節円板の中央狭窄部が障害を受け、関節円板は変形します。



6. 顎関節雑音の治療

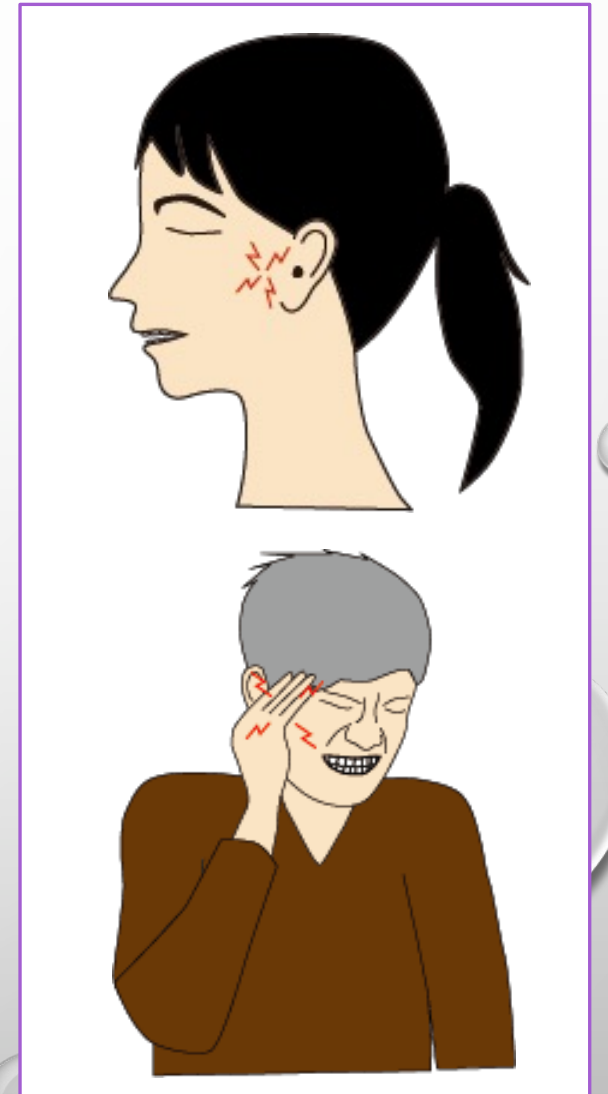
顎関節雑音の治療は、咬合分析に基づいて機能的な不正咬合を明らかにし、咬合干渉を除去する咬合治療が中心となります。咬合干渉を除去した後、顎関節内部の器質的変性・変形の回復時間が必要とされます。治療開始当初、患者さんの咬合干渉を除去すると一時的に顎関節の症状は改善します。しかし、1週間ほど経過すると中心位が変化し以前よりも軽症に中心位の干渉と症状が再発します。その結果、軽度に再発した咬合干渉を再度除去することになります。この治療開始後の軽度の再発期間は、一週間程度から次第に長くなり、最終的には数ヶ月になります。この咬合干渉除去の繰り返しにより、顎関節の障害は徐々に回復して完治に向かいます。



7. 顎関節雑音の治癒経過

関節円板は、線維性結合組織により構成されているため、変形した関節円板の回復には長期間を要します。

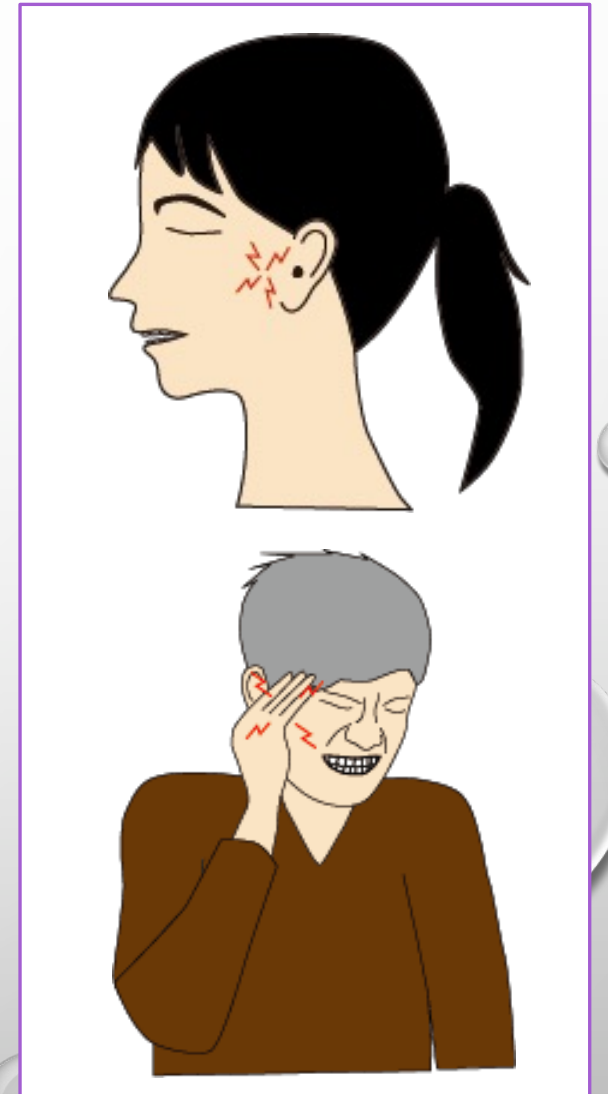
顎関節雑音の治療期間は、数ヶ月から1～2年間に及ぶことがあります。その間の治療内容は、中心位の変化に伴う咬合干渉除去の繰り返しです。すなわち、中心位の咬合干渉を繰り返し除去することにより、関節円板は下顎頭から受ける不適切な刺激を受けることが少なくなります。その結果、関節円板は少しずつ回復に向かい本来の形態を取り戻すこととなります。関節円板が本来の形態に近づくことにより、下顎頭は本来の中心位的位置に近づき、顎関節の雑音は完治します。



8. 顎関節雑音の問診と診察

顎関節雑音を主訴として来院する患者さんはそう多くはありません。しかし、顎関節雑音を伴う病気は顎関節の器質的変性・変形が生じる病気ですので、治療することなく放置すると病気は進行し続けます。したがって、顎関節雑音の治療は、関節円板の障害が少ないうちにできるだけ早い段階で治療を開始する必要があります。

変形性顎関節症に対して早期に治療を開始するためには、歯科医療機関に来院したすべての患者さんに対して、主訴の他に顎関節雑音の有無を確認するための問診が必要とされます。その結果、関節円板の穿孔のような顎関節の不可逆的変性・変形を防止することができます。



【歯科開業医の談話室33】

顎関節の雑音

参考文献

- 1)保母須弥也:咬合学事典、書林、東京、1979.
- 2)Peter E. Dawson : Functional Occlusion From TMJ to Smile Design, MOSBY, St. Louis, 2007.
- 3)外川正:入門顎関節症治療のための咬合分析と診断, 金原出版, 東京, 2009.
- 4)外川正, 武田泰典, 加藤貞文, 阿部 隆, 千葉健一, 水間謙三, 岡田 弘:いわゆる「顎関節症」から分離して扱うべき疾患—とくに隣接医科との整合性を考慮して—, 日本歯科評論, 624:171~180, 1994.
- 5)Niles F. Guichet : Occlusion, Anaheim, Calif. , 1977.
- 6)最新医学大辞典, 医歯薬出版, 東京, 1987.
- 7)福井次矢:内科診断学第2版、医学書院、東京、2008.
- 8)Okeson JP : Long-term treatment of disk-interference disorders of the TMJ with anterior repositioning occlusal splints. J Prosthet Dent 1988 ; 60 : 611-616.
- 9)Dawson PE : Bad advice from flawed research. AGD Impact April : 30-31, 1995.



今回のテーマを気に入っていただければ👍をクリックしてください。
質問あるいは疑問がある方は、下の公開コメント欄にお書き下さい。
よろしければチャンネル登録をお願いいたします。

次回のテーマは、歯科開業医の談話室34番目「オクルーザルスプリント」です。